

龍谷大学 学修支援・教育開発センター通信

Ryukoku University
Learning Support ·
Educational Development
Center Report

2019

01



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

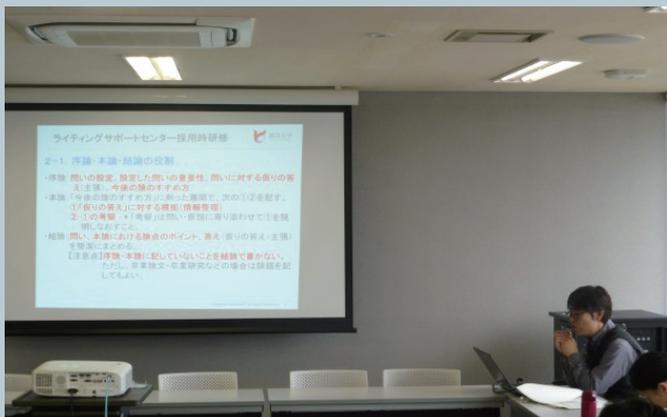
学修支援・教育開発センター | 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2163 Fax 075-645-2190 fd.ryukoku.ac.jp
発行日: 2019年11月 編集・発行: 龍谷大学 学修支援・教育開発センター



新任教員研修



履修相談ブース



ライティングサポートセンター



FDサロン

2019, Number 01

CONTENTS

- p03** 新入生対象履修相談ブース(十学部合同学生会主催)
- p04** 2019年度前期ライティングサポートセンター活動報告
FDサロン開催報告
- p06** 「高校現場のアクティブラーニング」
FDサロン開催報告
- p07** 「2019年度新任教員研修」
2019年度第1学期
- p08** 「学生による学期末の授業アンケート」実施報告
- p09** ラーニングコモンズからのお知らせ
- p10** 2019年度自己応募研究プロジェクト中間報告会一覧
- p11** 新着図書紹介

新入生対象履修相談ブース（十学部合同学生会主催）

新入生対象履修相談ブース （十学部合同学生会主催）

十学部合同学生会では、毎年、新入生のオリエンテーション期間中に、深草・瀬田キャンパスにおいて履修相談ブースを設置し、新入生の履修手続きや講義に関する不安・疑問等に対応しています。

今年度は、4月5日（金）に深草キャンパス和顔館スチューデントコモンズ、瀬田キャンパス学生交流会館1階において開催し、多くの新入生が履修相談ブースを訪れました。

当日を迎えるまでに、十学部合同学生会の活動をサポートしている教学企画部と実施に関する打ち合

十学部合同学生会とは…

学生会選挙で選出された代議員で構成する学生会組織の1つで、「学生の正課環境の改善・向上」をテーマに活動しています。学修支援・教育開発センターと連携を図り、学生・教員・職員が一体となって学びについて考える学生FDサロン等、学生FD活動にも積極的に取り組んでいます。

わせを行いました。また、2019年度から新たな教養教育カリキュラムが始まるため、教養教育担当の教育学部職員から、主な変更点の説明を受けました。さらに、一部の学部では、学部教務課とも連携し、学部特有の履修方法等についても確認しました。



十学部合同学生会と教学企画部について

教学企画部は、教員の教育改善活動や学生の主体的な学修を促す支援を行っている学修支援・教育開発センターの事務局を務めており、十学部合同学生会とは、「学生の正課環境の向上」という点で同じ方向を目指しています。十学部合同学生会は、年間を通じて、教学企画部と意見交換を行い、様々な活動を行っています。

2019年度前期ライティング

2018年4月に開設したライティングサポートセンター(以下、「センター」という。)では、「論理的に考える能力を養い、それにとまなう表現の技術を高める。」「読み書き能力の向上にとどまらず、分析力を高める。」の2点を基本理念として、ライティングチューター(本学大学院生)が学部生のレポートや卒業論文などのライティングにまつわる相談に応じています。

センターには、現場を統括するライティングスーパーバイザーと19名※のライティングチューターがいます。新規採用されたライティングチューターに対して、ライティングスーパーバイザーが講師となり、2日間(座学1日・ロールプレイング1日)で合計3つのテーマの研修を行っています。今年度は「①業務の説明と相談対応の概要(2時間)」「②相談対応に必要なアカデミックライティングの基本知識(2時間)」で業務に必要な知識を身につけた後、2年目以上のライティングチューターを交えて「③模擬の相談対応(ロールプレイング)とその検討(3時間)」を行い、相談対応力を高めています。

※2019年8月末現在

【採用時研修の目的】

- (1)センターでの相談対応に必要とみられるアカデミックライティングの基本を知る。
- (2)(1)を共有事項として、ライティング支援スキルの向上やそのほかの業務に役立てる。



研修の様子①：座学



研修の様子②：ロールプレイング

【参考】ライティングチューター所属研究科一覧

〈単位：名〉

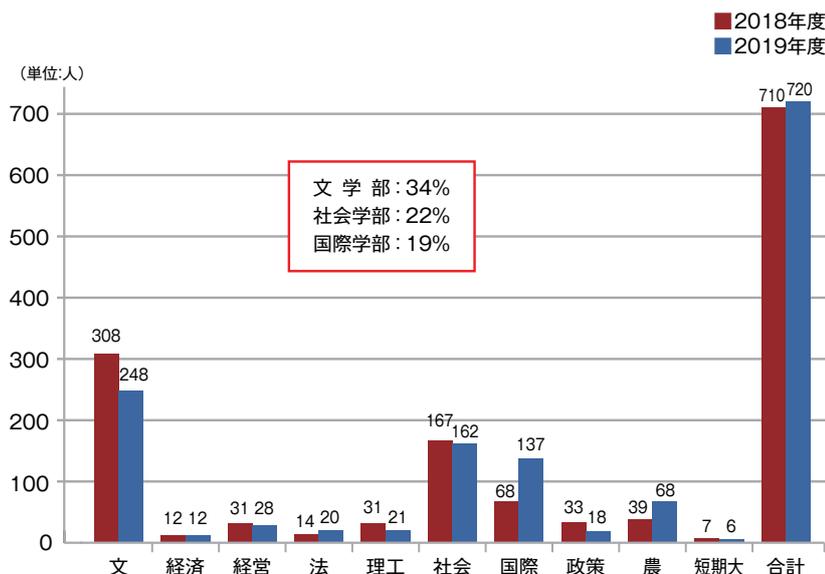
	文学				法学	社会学	理工学	政策学	国際文化学・国際学		総計
	真宗学	仏教学	日本語 日本文学	東洋史学	法律学	社会学	情報メディア学	政策学	国際文化学	言語コミュニケーション	
修士課程	2					1	1	1	1	2	8
博士課程 (研究生・特別 専攻生含む)	5	2	2	1	1						11
総計	7	2	2	1	1	1	1	1	1	2	19

サポートセンター活動報告

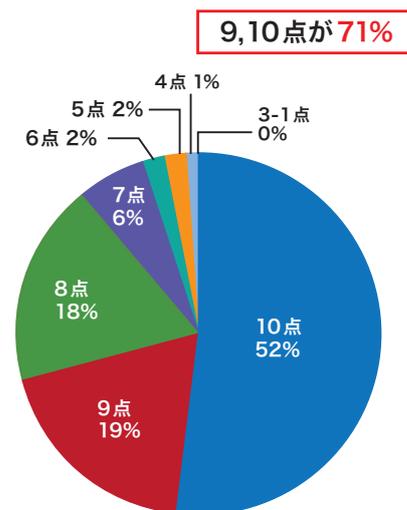
2019年度前期は、深草キャンパス(週5日)、大宮キャンパス(週3日)、瀬田キャンパス(週3日)で開室しました。すべての相談内容を記録し、統計分析やチューター間の共有に活用しています。また、任意ですが、相談者に対して利用者アンケートを実施し、その内容を踏まえて改善に努めています。

【2019年度（前期）利用者実績】

(1) 学部別利用者数（延べ人数）



(2) 設問：自分の考えを引き出せたか ※1～10点を選択



教員の皆様へお知らせ

ライティングサポートセンターの紹介・説明

授業時間を利用し、チューターが学生に向けて、よくある質問や活用例などを紹介・説明させていただきますので、是非ご活用ください。

〈問い合わせ先〉 教学企画部（内線：1050、e-mail：dche@ad.ryukoku.ac.jp）



6/5(水)2講時に国際学部国際文化学科の基礎演習A(1年次必修科目)でライティングサポートセンターの紹介を行いました。ゼミ単位等の少人数クラスに対する紹介も受け付けていますので、ご興味がありましたら、ご連絡をお待ちしています。

高校現場のアクティブラーニング

2019年7月16日(火)に、「高校現場ではどのような授業が行われているのか～京都府立桂高校のアクティブラーニング型授業の事例から～」と題し、FDサロンを開催しました。昨年度に引き続き、実際に授業でアクティブラーニングを行っている高校から先生をお招きしました。今年度は京都府立桂高校の西山周平先生にお越しただいて、実際にどのような授業をしているのか、具体的な授業実践方法についてお話を頂きました。

桂高校では、「桂リサーチプロジェクト(KRP)※」の取組にみられるようにアクティブラーニング型の授業に先進的に取り組まれており、また本学とは高大連携協定校としての繋がりもあることから、今回お招きしました。

当日の参加者数は18名で、教員・職員だけでなく、付属校や関係校の教員等も参加しました。

〈※KRP〉

KRPとは、1学期に行う基礎プログラム、2・3学期に行う探究プログラムの講義・講演等を通じて、5つの力(創造的思考力、論理的思考力、協働的思考力、表現力、時間管理力)の習得を目指す授業です。本学も講演やワークショップ等で協力しています。

KRPの目標は、「物事の本質を捉えながら、自主的・主体的・協働的に物事を考えることができ、自己の考えを効果的に伝え、他者の意見を把握しながら正しく議論できる」です。

プログラム内容は、「アイデアの見つけ方(企業担当者)」「大学訪問(龍谷大学)」「プレゼンテーション(企業担当者)」等で、企業や大学と連携して行い、中間発表や最終発表でもこれらの関係者が講評を行っています。



講演者の西山周平先生

〈KRP運用に関する主な評価方法〉

- 教科「KRP」における評価状況
→ルーブリックに基づいて評価
- 生徒アンケート(計4回分析)
→生徒の自己評価を分析
- GPS-Academicの結果分析
→教員向け分析会を実施

〈主な質疑応答〉

Q1 最終発表で、教員に講評をいただく前に、プレゼンテーションを聞いた生徒にコメントを求める時間を設けていますか。

A1 生徒は質問内容などの聞き取りシートを準備しているので、発表を聞いて感じたことを質問したり、何か交流したりするように指導しています。

Q2 生徒が活発になっていく姿をどのように共有されているのでしょうか。生徒へのアンケートと研究コース推進会議のリンクはどうなっているのでしょうか。

A2 アンケートの結果を実施に十分つなげられてはいませんが、発表したり話し合いをしたりすることは実際に授業内で行っています。推進会議では、このクラスの生徒の強さはどの辺にあるのかということを教科担当で共有しています。



2019年度新任教員研修

龍谷大学に着任された教育職員を対象に、本学の教育・研究・社会貢献及びFD活動等についてご理解いただくため、毎年2時間程度就任時研修を行っています。今年度は、2019年4月1日(月)、2日(火)※に学修支援・教育開発センター主催の新任教員研修を行い、26名に参加いただきました。研修内容は、例年行っている「社会貢献活動(RECセンター長)」「研究活動(研究部長)」「学修支援・教育開発センターの活動・支援(学修支援・教育開発センター長)」「長期計画(教育担当副学長)」に加え、全学的に導入している「教員活動自己点検活動(大学評価支援室長)」の5つのテーマで研修を行いました。

※各日同内容で実施。

1日：瀬田キャンパス所属教員対象 2日：深草キャンパス所属教員対象



吉岡副学長



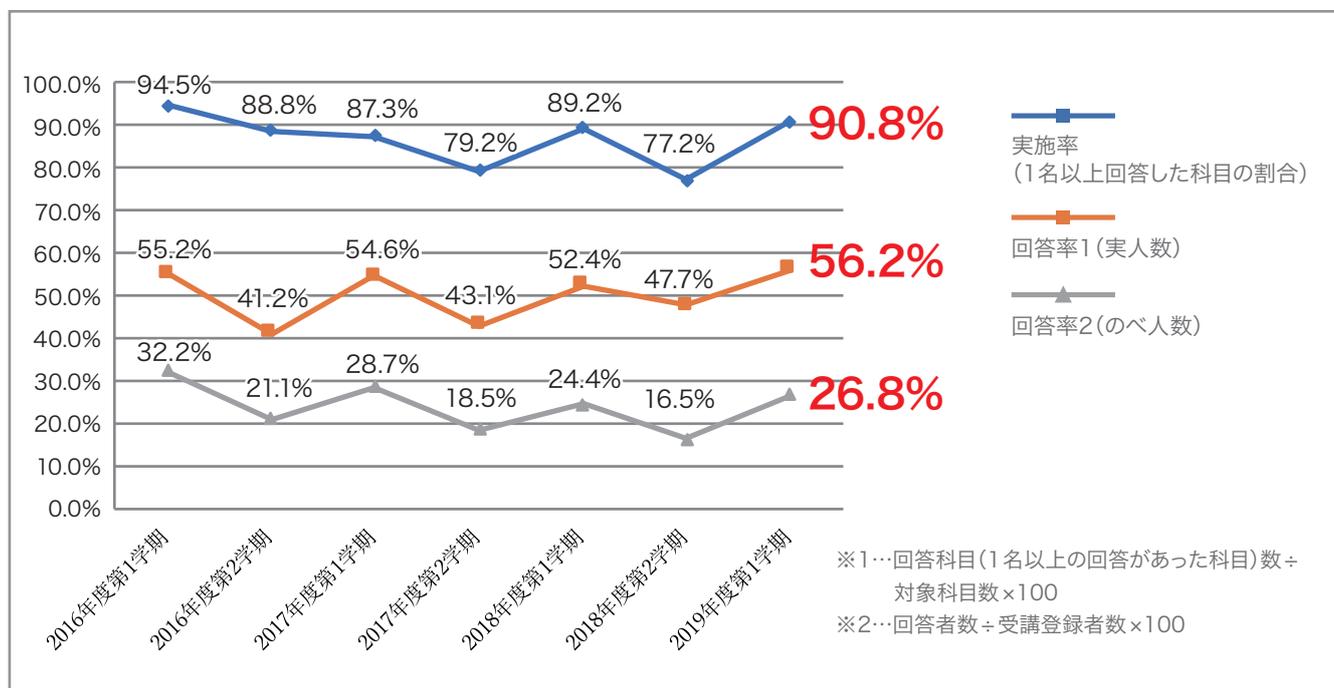
窪田大学評価支援室長

参加者の声(アンケートから)

- 大学の理念にもとづいた様々な取組を4月1日にうかがうことができ、大変良い機会となりました。
- これからの龍谷大学についてのイメージを抱くうえで、非常に参考になりました。

2019年度第1学期「学生による学期末の授業アンケート」実施報告

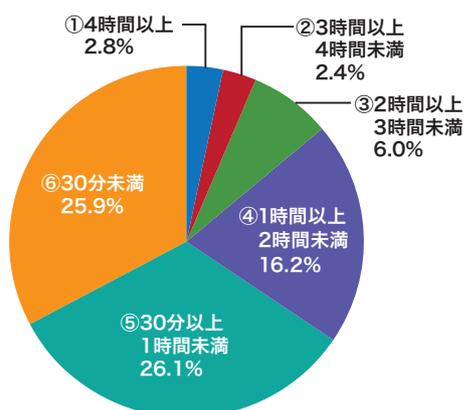
「学生による学期末の授業アンケート」は、2016年度からmanaba courseを活用した方法へ移行しました。4年目となる今年度の第1学期の実施率※1は90.8%(対前年度比1.6%増)、回答率※2は26.8%(対前年度比2.4%増)となりました。



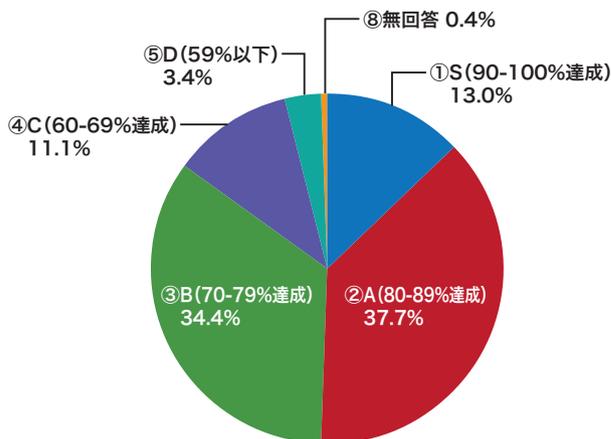
学期末の授業アンケートの調査内容は、大きく3つ「全学共通項目(全学生に共通する設問)」「開講責任組織設定項目(学部・研究科・教養教育科目部会等で実施有無・内容を決定)」「教員個人設定項目(個人で自由に設定)」に区分されています。

参考までに、「全学共通項目(全学生に共通する設問)」の調査内容の結果を例示します。

Q. 1回の授業に対して、平均してどのくらい授業外学習(自主学習・課題学習・予習・復習など)を行いましたか。



Q. この授業のシラバスに示されている「到達目標(目的・ねらい)」を、どの程度達成できたと思いますか。



ラーニングコモンズからのお知らせ

1. コラボレーションエリア・クリエイティブエリアの授業での利用について 【深草キャンパス スチューデントコモンズ(要予約)】

これまで、コラボレーションエリア・クリエイティブエリア※は通常利用者を優先することとしておりましたが、2019年度後期から試行的に、授業での利用を受け付けることとなりました。原則ゼミ・演習単位(20名程度を想定)で事前予約制とし、時間帯は1講時(9:00～10:30)と2講時(10:45～12:15)で、スポット利用(15回授業のうち1～2回)で受け付けをしますので、これを機会にコモンズをご利用ください。

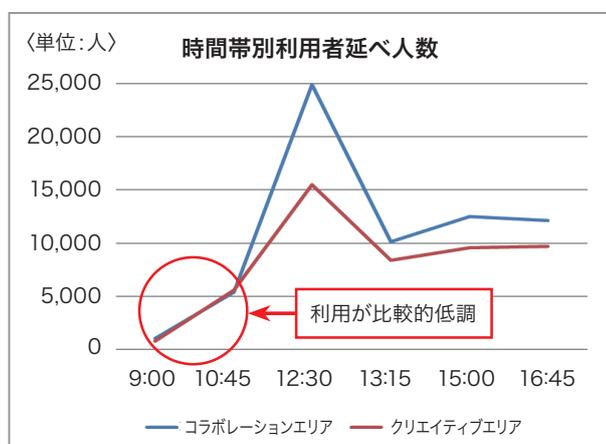
※コラボレーション・クリエイティブエリア：個人学習やグループ学習を行う空間。組み合わせが自由にできるユニークな机や、可動式ホワイトボードがあり、状況に応じた学修環境のアレンジができるスペースです。



コラボレーションエリア



クリエイティブエリア



※2015～2018年度利用者延べ人数

※1日6回(横列の時間帯)目視で人数カウント

2. アクティビティホールをご利用ください。 【深草キャンパス スチューデントコモンズ(要予約)】

アクティビティホールは、ゼミ活動やワークショップ、成果発表等のイベント会場として多様な用途に使用できます。

【2019年度前期の主な活用事例】

- 春休みに実施する海外体験学習プログラム(台湾・スリランカ)の報告会(5/20)
- 仏教学基礎演習Aにおける学生のプレゼンテーション大会(6/28)



上記1.2の利用申請書は、<https://www.ryukoku.ac.jp/learningcommons/reservation.html>からダウンロードできます。【申請書の提出先】教学企画部(深草キャンパス紫英館1階教学部内)

2019年度自己応募研究プロジェクト中間報告会一覧

学修支援・教育開発センターでは、教育の質及び教育力の向上を推進する一環として、学内のグループ又は個人に対し、授業・教材等の研究開発の支援を行う「自己応募研究プロジェクト」事業を実施しています(2019年度は7件の研究プロジェクトが進行中)。

中間報告会は、それぞれの研究プロジェクトの遂行状況を全学に公開し、その研究成果を共有することを目的としています。詳細につきましては、開催日の約1週間前を目処に「学修支援・教育開発センターNews」にてご案内しますので、是非中間報告会に足をお運びください。

代表者名	プロジェクトテーマ	日時	場所	中間報告テーマ	中間報告概要
西岡 久充 (経営学部)	デジタルとアナログの融合を考慮したmanaba courseの効果的活用	2019年 12月13日(金) 16:00~17:30	深草学舎 紫英館 第1共同研究室	デジタルとアナログの融合を考慮したmanaba courseの効果的活用	授業環境はいわゆるICT時代とはいえ、学修過程の一部をコンピュータによって置き換えただけの取り組みにすぎないと言える。一方でアクティブラーニング等学生らが積極的に参加するタイプの授業も推進されている。本研究では、「対面授業(アナログ)」と「ICTを利用した授業(デジタル)」との鞍点を効果的に決定しようとしている。今回は大人数授業における対面授業とmanaba courseの有効活用の試みとして、学生が自ら学修に取り組もうとする状況を作り出すLIVE授業(L-learning)の中に、グループディスカッションや本学に今年度から新たに導入され「respon」を組み込んだ効果について報告する。
李 洙任 (経営学部)	Moodle機能を使つてのチーム基盤型学習(Team Based Learning/TBL) - 学生の主体性をどこまで高めることができるか -	2019年 11月5日(火) 15:00~16:30	深草学舎 和顔館 B201教室	Engage and Create —基礎知識の内在化と学生が主導する授業運営	TBLでは教員がFacilitator的役割に徹し、Input(情報提供)をどのようにProcessさせ、そしてどの程度のOutput(発表やDiscussion)力を認識できるか、という一見簡単に見えてこの授業運営には教員側の努力と忍耐が必要となるが、ITの技術を駆使して、可能にするのが本FD実践の特徴である。従来のTBLをさらに発展させた教育法である。TBLの利点を以下にまとめる。 利点1：基礎知識の内在化を効果的にできる。 利点2：iRAT(自宅で取り組むクイズ)からtRAT(授業で取り組むクイズ)へ、知識の内在化から顕在化へのプロセスを移行させやすい。 利点3：iRATからtRATへ、そしてDiscussion(知識の内在化から顕在化、そして創造力への発展) 利点4：「他者」との関係性において本当のリーダーシップとは何かを考えさせられる。 利点5：TBLの参加度(Engage and Create)と個人レポートの相関を見る。複眼的評価の実践。
佐野 彰 (理工学部)	全学無線APを利用した出欠管理システムの開発	2019年 11月20日(水) 13:35~15:05	瀬田学舎 1号館 1-534講義室	モバイルデバイスを用いた新たな学習支援	本プロジェクトでは、全学に導入された無線LANアクセスポイント内蔵のBluetoothビーコン機能と学生所有のスマートフォンを利用し、学生の講義等への出欠記録を低コストで実現するためのシステム開発を行っている。ここでは、本プロジェクトで開発しているスマートフォンアプリ、管理サーバ、Web検索システムなどの出欠システムの概要を紹介すると共に、これまでの試験運用で得られた知見に基づき今後の展開を議論したい。
樋口 三郎 (理工学部)	チャットボットによる問題演習・振り返り支援システムの開発と試行				Chat botは、自動的に会話して注文を受けたり質問に答えたりするプログラムである。SNS上で動作しテキストで応答するchatbotは、SNSの普及率の高さもあり、LMSを補完するものとして教育・学習分野で注目されている。学習用のchat botは、各自のペースで学習できる自習システムに適しているが、学習者と期間を特定して実施される授業科目での学習支援として使うことも考えられる。そのために必要なLMSとの連携、chatbot側からユーザへ適切なタイミングで話しかける機能の開発を、SNSとしてLINEを想定して進めている。開発の現状と、chat botから演習問題を送る機能の試用結果を報告する。
ジョナ・サルズ (国際学部)	演劇の講義のためのビデオのデジタル化と編集	調整中	調整中	映像編集と整理：比較演劇の場合	調整中
生駒 幸子 (短期大学部)	保育における言葉の指導法の学修に関する授業改善・教材開発	2019年 7月6日(土) 2・3講時	深草学舎 22号館 201講義室	保育における言葉の指導法の学修に関する授業改善・教材開発	子どもの言葉を育む指導法を学ぶ学修目標を設定し、実習を控えた2年生の2授業「保育内容Ⅱ(言葉)」(前期8回)と「国語」(前期8回)に連続性を持たせて授業を展開した。「保育内容Ⅱ(言葉)」において言葉を育む保育教材として絵本を取り上げ、少人数グループにおいて1冊の絵本を選び、その絵本からヒントを得て「発達にふさわしい遊び」を創造するグループワークに取り組んだ(遊びのマップ作成)。この絵本の世界から遊びを見出す教材研究をふまえ、「国語」においては遊びのマップから一つの遊びを選び、対象年齢の発達にふさわしい保育指導案を立案するグループワークに取り組んだ(保育指導案の立案)。この一連のグループで取り組みを学年全体で共有するために、動画や写真を取り込んだパワーポイントを作成し(ICT活用)、学修成果発表会を実施した。



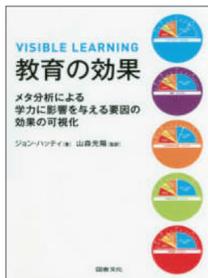
アクティブラーニングのための学習評価法
— 形成的アセスメントの実践的方法 —



アクティブラーニング+学習評価=深く思考・判断する学習。教師だけでなく子どももアクティブラーニングの評価に関わることによって、思考・判断が深まります。そのポイントは、このような学びになればよいという“成功規準”を子どもと一緒に創ること。そうすれば、小集団やペアなど子ども同士の学びと評価もうまくいく!

出版年月: 2016年3月
著者: シャーリー・クラーク
訳: 安藤 輝次
発行所: 関西大学出版部
価格: 4,320円(税込)
ページ数: 236p
大きさ: A5判
ISBN: 9784873546292

教育の効果
— メタ分析による学力に影響を与える要因の可視化 —



John Hattieの世界的ベストセラー“Visible Learning”、待望の邦訳版! 世界各国の800以上の研究を対象に、学習者自身の属性、家庭環境、学級やクラスメイト、教師の指導方法など、学力に影響を与える様々な要因の影響の大きさを比較可能な指標で示す。あらゆる教育のエビデンスをこの一冊に集積。

出版年月: 2018年02月
編者: ジョン・ハッティ/山森 光樹
発行所: 図書文化社
価格: 3,996円(税込)
ページ数: 424p
大きさ: A5判
ISBN: 9784810076868

大学英語教育の質的転換
「学ぶ」場から「使う」場へ



英語教育のパラダイムシフト—グローバル化時代に求められる語学力とは何か。アクティブで双方向的な英語授業を実現するための理念と教授方法、及び学習方法を提言。横浜市立大学 Practical Englishへの挑戦。

出版年月: 2019年01月
編者: 佐藤 響子/マクガリー、カール/加藤 千博
発行所: 春風社
価格: 2,484円(税込)
ページ数: 218p
大きさ: A5判
ISBN: 9784861106187

ティーチング・ポートフォリオ
導入・活用ガイド



今、高等教育の現場で強く求められているスキル!! 現場で使える導入・活用ガイド! すぐ使える文書例付。
著者がこれまでに実践してきたティーチング・ポートフォリオ(TP)のノウハウを具体的に記述。TPが初めての読者、TPを作成したい読者、TPの導入を考えている大学関係の読者などに必携の書。

出版年月: 2012年2月
編者: 皆本 見弥
発行所: 近代科学社
価格: 2,376円(税込)
ページ数: 121p
大きさ: B5判
ISBN: 9784764904200

大学の組織と運営 大学SD講座



大学職員などの能力開発を指すSD(Staff Development)が2017年から各大学で義務化された。本書は、制度や法規など大学職員に必要な知識を体系的にまとめ、個々の業務と全体の活動とのつながりや、ステークホルダーとの関わり方などを現場の職員の視点で具体的に提示する。巻末には高等教育関連年表、用語集などを付す。

出版年月: 2019年8月
編者: 中井 俊樹
発行所: 2,200円(税込)
ページ数: 208p
大きさ: A5判
ISBN: 9784472405518

高等教育の質とその評価



認証評価や大学ランキングなど外部質保証、標準試験や卒論など直接評価による大学の内部質保証等、これら既成の方式に加え、今注目されているのは教育質向上の基礎的データとして学生による教育評価の活用だ。本書は、国際的視野の下、上記諸方式の意義と問題点をはじめ大学教育の質保証につき包括的に考察するとともに、大学教育と学生の成長・成果との関係性、即ち学生調査等を通じたカレッジ・インパクト研究をこの問題の鍵として焦点化した労作である。

出版年月: 2016年09月
編者: 山田 礼子
発行所: 東信堂
価格: 3,024円(税込)
ページ数: 261p
大きさ: A5判
ISBN: 9784798913834

学びの質保証戦略



世界に通用する市民を育成することを目標に、世界の大学はさまざまな取り組みを行っている。学生の学習成果の評価や学びの質保証、大学ランキングをめぐる国際的競争、高大接続など、日本と共通して直面する諸問題に、各国の大学はどのように対処しているのか。
成長著しいアジア諸国や英米豪の大学の事例・戦略を紹介する。

出版年月: 2012年5月
編者: 山田 礼子
発行所: 玉川大学出版部
価格: 2,860円(税込)
ページ数: 180p
大きさ: A5判
ISBN: 9784472404542

グーグルが消える日
Life after Google ライフ・アフター・グーグル



グーグルに支配された現在のインターネットの世界はまもなく崩壊を迎える。なぜ、グーグルが消えるのか?そしてグーグルが消えた後、インターネットの世界は一体どうなるのか?これから本書ですべてをお話ししよう。

出版年月: 2019年5月
編者: ジョージ・ギルグー
訳: 武田 玲子
発行所: SBクリエイティブ
価格: 1,944円(税込)
ページ数: 432p
大きさ: A5判
ISBN: 9784797399035

高等教育質保証の国際比較



アクレディテーションからアカウントビリティへ、さらに評価の客観性と学位の共通性・互換性の確立へ—ユニバーサル化とグローバル化の趨勢の中ますます重要性を増すとともに、理論と実践の両面で様々な議論と試行が錯綜するこの問題につき、中国、米国、欧州各国等、それぞれ特色ある諸国の実態調査と国際比較を通じ、日本が抱える問題点と改革の具体的方途を追求。

出版年月: 2009年12月
編者: 羽田 貴史/米澤 彰純/杉本 和弘
発行所: 東信堂
価格: 3,888円(税込)
ページ数: 316p
大きさ: A5判
ISBN: 9784887139480

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購出し、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1.お名前、2.所属、3.教員/職員の別、4.貸出希望の書名、5.著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。詳細は、http://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher/siryou/ をご参照ください。



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY